

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 「グローバルに活躍する」人間の育成</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力（5K力）の育成</p> <p>4 「学力の向上」と「希望進路の実現」の達成</p>	<p>(成果)</p> <p>1 京都大学2名、大阪大学5名をはじめ、神戸大学5名、名古屋大学1名、九州大学1名、京都市芸繊維大学5名など、国公立大学に103名が合格し、さらに国立医学部医学科に1名、関関同立に現役で85名（のべ人数）が合格するなど、多数合格した。本校の進路指導の実績を積み上げることができた。（合格者数は現役生のみ）</p> <p>2 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業の共同実施校の指定を受け、鳥羽高校と交流や大学教授による英語の講義を受ける等グローバル人材育成の取組をすることができた。</p> <p>3 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校の取組として、今年度新たに京都府北部の3校で地元地域において成果発表の機会を設け、多くの生徒が発表し他校と交流することもできた。</p> <p>4 部活動ではコロナ禍の影響が大きかったが、部活動加入率は86.1%と高く、近畿大会や全国大会で素晴らしい活躍する生徒もあった。</p> <p>5 Webを活用して学校外の機関等と連携する実践を積み重ねることができた。</p> <p>6 進路指導では、授業を柱に面接指導、小論文指導、面談、にじゼミを含む講習など、学年部と進路指導部、教科担当を中心に学校全体で取り組むことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 新学習指導要領への対応と、高大接続改革に対応した授業改善に向け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な取組をさらに加速させる。</p> <p>2 前期選抜（普通科4.0倍、文理科学科1.2倍）は募集定員を上回る高倍率となったが、普通科の中期選抜では志願者が定員を満たさなかった。本校の魅力をしっかり伝え、生徒募集体制を充実させる必要がある。</p> <p>3 ICT活用では、プロジェクトの効果的な利用やタブレット一人一台に向けての準備を進めて行く必要がある。</p> <p>4 教職員の働き方改革を進め、業務改善の実行と部活動運営の適正化を図り、魅力ある職場で子どもたちに豊かな教育ができるように努める。</p>	<p>1 学力の向上と希望進路の実現</p> <p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>(2) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>(3) 自ら目標を設定させ、主体的に学習に向かう姿勢を育むことにより、一人ひとりの希望進路実現を目指す。</p> <p>2 特色ある取組の充実</p> <p>(1) 普通科のみらい考や文理科学科のみらい学をより一層充実させ、社会や地域の課題を自分事として捉え、主体的に課題解決に取り組む姿勢を養う。</p> <p>(2) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業共同実施校として、海外の大学等との連携など国際理解教育の機会を充実させ、グローバル人材の育成を図る。</p> <p>(3) 医学進学プログラムや教員養成プログラムをはじめとするキャリア教育を充実させ、進路意識を高める。</p> <p>3 豊かな心を育む教育の実現</p> <p>人権意識を高め、自他を敬愛する心やいのちを大切にすること、公共性や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要な力を育成する。</p> <p>4 学校組織の改善と見直し</p> <p>教職員の資質・能力及び学校全体の教育力向上のため、中高各分掌・教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。</p> <p>5 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒・保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>6 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。</p> <p>(2) 地域連携やボランティア活動等を通して、自分たちが将来地域や社会を支えることを自覚させ、使命感を持たせる。</p> <p>7 中高一貫教育の推進</p> <p>中高6年間を見据えて資質・能力の育成するとともに、中高一貫教育校のよさを活かして全体の活性化を図る。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題														
組織・運営	令和4年度からの新学習指導要領や情報端末の導入に対応し、組織的な授業改善に取り組む。	<p>新学習指導要領を踏まえ、情報化やグローバル化に対応した教育の在り方について十分な検討を行い、次年度導入に対応する。ICTを積極的に活用し、授業改善に努める。</p> <p>[ICTを授業等で積極的に活用したという割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員対象の「内部評価アンケート」では、ICTを授業等で積極的に活用したという回答が65%であった。教員の効果的な活用に関しては個人差が大きい。</li> <li>・ICT活用では、今年度普通教室に設置されたプロジェクタの利用が進んでいるが、1人1台タブレット端末導入を視野に入れた活用方法を教員全員で共有できるような機会を積極的に設ける必要がある。</li> <li>・「内部評価」で自己の資質・能力が向上したと実感した割合は69%であり、オンラインを含め校外の研修を受講や日々授業研究に励む教員は多く、その成果があったと考えられる。</li> <li>・10月に感染症対策を講じて学校説明会を実施した。アンケート結果では、どの項目においても参加中学生の97～100%が「よかった」という評価をしており、本校について理解を深めてもらえる説明会となった。</li> <li>・HP等のタイムリーな情報や「福高タイムズ」の発信などにより、「本校の魅力の発信」は積極的に行われた。（生徒・保護者学校評価アンケート結果では約7割が肯定的に評価している。）</li> </ul>						
	A	B	C	D														
	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下														
教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のため、各分掌・教科、個人が互いに連携し、積極的に取り組む。	<p>学習や生徒指導、学校運営等において、教科や分掌で連携を進め、OJTやPDCAを意識しながら教育活動の改善を行い、個々の教職員の資質と能力の向上を図る。</p> <p>[自己の資質・能力が向上したと実感した割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>69～50%</td> <td>39～25%</td> <td>24%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>-----</p> <p>[分掌間や教科内の連携が充分行えたと実感した割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>69～50%</td> <td>49～25%</td> <td>24%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	70%以上	69～50%	39～25%	24%以下	A	B	C	D	70%以上	69～50%	49～25%	24%以下	B B
A	B	C	D															
70%以上	69～50%	39～25%	24%以下															
A	B	C	D															
70%以上	69～50%	49～25%	24%以下															
学校の魅力を高め、積極的・効果的に発信する。	<p>充実した授業や課外活動、特色ある取組により本校の魅力を一層高める。学校説明会や広報紙、HPにより、本校の特色・魅力を積極的に伝える。</p> <p>[本校の特色・魅力が高まったと実感した割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～50%</td> <td>49～30%</td> <td>29%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～50%	49～30%	29%以下	B								
A	B	C	D															
80%以上	79～50%	49～30%	29%以下															
教務部	学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。	学力向上のため学年部と連携し、ガイダンスを積極的に実施する。優れた指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上のためのガイダンスは1年で2回（2年は研修旅行のため中止）実施したほか、生徒に学力向上に関する</li> </ul>														

		[授業アンケート中の主体的な学習活動に関する質問に対する生徒の自己評価の平均]	B		る喚起を行った。教員タブレットの普及により、多くの教員が使用し、ICT活用と授業改善の意識が向上した。授業アンケート中の主体的な学習活動に関する質問に対する生徒の自己評価の平均は3.4(昨年度3.3)であった。
	令和4年度からの新教育課程の編制および観点別評価、ICT活用に向けての準備を進める。	校内の全体研修を通して共通理解を図り、各教科での研究を推進して、より良い準備ができるようにする。	B	B	・令和4年度からの観点別評価の準備とタブレットの導入について、4月より情報提供を進め、方向性を決めることができた。今後は、その運用について精査し、引き続き努力したい。
	個に応じた指導を大切にし、単位不認定をなくす。	丁寧な学習方法の指導や個に応じた指導を進め、成績不良による単位不認定者をなくす。長期休業中の補充授業をより効果的な取組に改善する。 [成績不良による単位不認定者数]	A		・昨年度から継続して補充考査の在り方の改善に取り組み、1学期の補充考査の合格率は71%(昨年度82%)、2学期の補充考査の合格率88%(昨年度98%)であった。来年度の、新学習指導要領全面実施に向けて、教科主任会議中心に、年間指導計画の作成やルーブリック、関連表の作成・改善など、新しい評価について進めていきたい。
生徒指導部	安定した学校生活が進路実現につながるという観点に立ち、特に時間管理(遅刻指導)と社会的マナー意識(身だしなみ等)の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【遅刻指導】学年団と連携しながら多角的に指導することで、余裕をもった登校を促す。</li> <li>・【身だしなみ指導】全教職員で協力し、制服のボタンを留める指導を徹底する。</li> </ul> [学校評価アンケート『規範意識・挨拶・マナーは向上しているか』における『よくあてはまる・あてはまる』の生徒・保護者の平均値]	B	C	規範意識やマナーの向上の項目については保護者は昨年度と比べてほぼ同様、生徒は昨年度より低い結果(保護者82.7%、生徒87.4%)であった。また、学年集会などは感染症拡大の影響を受け、11月に1度のみ臨時で行ったのみであり、情報端末利用に関する啓発活動はさらに工夫が必要と考える。交通安全の推進については、生徒および保護者とも、すべての学年で昨年度から比べて評価は下がった(交通
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会や生徒部だより等を利用して、携帯情</li> </ul>			

	<p>報端末利用に関する啓発活動を積極的に行う。 [啓発活動の回数]</p> <table border="1" data-bbox="786 181 1368 264"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>8・9回</td> <td>6・7回</td> <td>5回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	8・9回	6・7回	5回以下	D	
A	B	C	D								
10回以上	8・9回	6・7回	5回以下								
<p>学校生活が安心、安全なものとなるよう、特に交通安全について意識の向上を図る。</p>	<p>・交通事故を防止するために、ヘルメット着用の推奨を含めた安全意識を高める啓発活動を継続的に行う。 [学校評価アンケート『通学マナーはよいか』における生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1" data-bbox="792 517 1361 600"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下	C	<p>C</p> <p>マナーは良い：生徒59%、保護者73.3% (平均66.2%)。事実、自転車の事故件数も、自損を除いて17件と昨年の9件を大きく超えた。10月後半から11月にかけて外部からの自転車通学に関する苦情が多く寄せられており、生徒の規範意識の向上に繋がる新しい取組が必要である。</p> <p>部活動・学校行事などの充実度も前年度より下がっている(保護者62.1%、生徒74.4%)。これは緊急事態宣言により、文化祭を始めとする様々な行事が縮小・中止となった事によると考える。そんな中ではあるが体育祭に関しては、高校3年生が立ち上がり、競技のみでもできた。これは生徒たちに「5K力」が確実に身につけていると考えられる。生徒会も自主的に学校祭について考えたり、生徒会新聞も発行回数は増えた。また、球技大会を学年別に行ったが、それぞれの体育委員を中心に活動でき、充実度は低くとも生徒会の活性化には近づいている。ボランティアに関しても、校内でできる活動を中心に取り組んだ。</p>
A	B	C	D								
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下								
<p>「5K力」の育成のため、特別活動(生徒会活動・部活動・ボランティア活動)の活性化を図り、将来、地域社会を支える自覚と創造力を兼ね備えた使命感を持たせる。</p>	<p>・生徒会執行部の活動を活発化させ、生徒が中心となる生徒会活動(特に福高祭)を充実させる。 ・コロナ禍でできることを模索し、なるべく多くの生徒がボランティアに参加できる機会を増やす。 [学校評価アンケート『部活動・ボランティア・学校行事の充実度』における生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1" data-bbox="792 919 1361 1002"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下	C	
A	B	C	D								
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下								
<p>進路指導部</p> <p>生徒が希望進路の実現に向けて前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。</p>	<p>第3学年部や教科担当者との連携を密にして生徒の希望進路実現を図る 4月実施の進路希望調査で国公立大学を志望した生徒の合格率</p> <table border="1" data-bbox="799 1307 1368 1425"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>50%以上59% 未満</td> <td>40%以上49% %</td> <td>40%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	50%以上59% 未満	40%以上49% %	40%未満	B	<p>A</p> <p>学年部と毎週連携をとったり、毎学期進路検討会を行って情報共有に務めた。現時点での国公立大学の合格者は91名である。</p> <p>希望進路未定の生徒は4月に57名(12.4%)いたが、2学期末には11名(2%)</p>
A	B	C	D								
60%以上	50%以上59% 未満	40%以上49% %	40%未満								

	1、2年生の進路意識を向上させる。	<p>夢を抱いて頑張る生徒を育成する。 [2学期実施の1・2年生進路希望調査で、未定と回答する生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～3%未満</td> <td>3%以上5%未満</td> <td>5%以上7%未満</td> <td>7%以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0～3%未満	3%以上5%未満	5%以上7%未満	7%以上	A	であった。今後は、個人が望む人生のあり方や生き方を考えながら社会で求められる資質や能力を身につけ、最終的に自分に合った進路実現ができる体制を整えていきたい。
A	B	C	D									
0～3%未満	3%以上5%未満	5%以上7%未満	7%以上									
保健部	<p>生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防、また、授業・部活動</li> <li>・登下校時の災害防止に努める。定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行し、健康、安全に関する注意喚起を行う。</li> <li>・新型コロナウイルス等感染症の拡大防止のため、啓発活動、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制で取り組むことができるよう、情報提供や提案を行う。</li> <li>・健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。</li> </ul> <p>[歯科 要治療生徒の受診率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20%以上</td> <td>19～15%</td> <td>14～10%</td> <td>10%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20%以上	19～15%	14～10%	10%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断や研修旅行等の学校行事に関する情報や注意、また新型コロナウイルス感染症対策を中心に、時機に応じた「ほけんだより」「安全だより」を発行した。発行回数は、「ほけんだより」20号、「安全だより」3号である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、毎朝各クラスの検温表の回収とチェックを行い、生徒の健康状態の把握に努めた。全校協力体制の下で、今後も気を緩めることなく感染症対策に取り組んでいきたい。</li> <li>・健康診断の実施時期が2学期となった関係で、受診率は伸び悩んだが、歯科受診率は15パーセントに達している。</li> <li>・保健委員は、集積所当番の他、清掃状況のチェック、事故災害件数のチェック、また教室のCO2濃度の測定やアルコール・ハンドソープの詰め替え等、年間を通じて意欲的に活動した。</li> </ul>
	A	B	C	D								
20%以上	19～15%	14～10%	10%未満									
<p>環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室、トイレ、廊下等、校内の清掃、また感染症予防のための消毒を確実にし、校内の衛生管理に努める。</li> <li>・保健委員による教室の衛生管理、清掃点検、安全点検等の活動を定期的に行う。</li> </ul> <p>[保健委員の年間活動回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20回以上</td> <td>19～15回</td> <td>14～10回</td> <td>10回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20回以上	19～15回	14～10回	10回未満	A		
A	B	C	D									
20回以上	19～15回	14～10回	10回未満									
人権教育部	<p>様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の</p>	<p>学年部や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートに対する高校生のプラス評価は、90%以上であつ</li> </ul>								

	実践的態度を養う。	[学校評価アンケート 保護者全員の人権学習に対するプラス評価平均] <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>80%以上</td><td>75%以上</td><td>70%以上</td><td>70%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満	D			
A	B	C	D											
80%以上	75%以上	70%以上	70%未満											
	各種援護制度の周知と活用を図り、就・修学の保障に努める。	援護制度について、広報や説明会を充実させる。 [お知らせメール及びホームページの活用] <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>8回以上</td><td>7～5回</td><td>4～2回</td><td>1回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7～5回	4～2回	1回以下	C			
A	B	C	D											
8回以上	7～5回	4～2回	1回以下											
	教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。	教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。 [教職員人権研修の実施] <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3回</td><td>2回</td><td>1回</td><td>0回</td></tr> </table>	A	B	C	D	3回	2回	1回	0回	A	B		
A		B	C	D										
3回	2回	1回	0回											
	[人権教育推進会議及び合同部会の実施] <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>9回以上</td><td>8～6回</td><td>5～3回</td><td>2回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	9回以上	8～6回	5～3回	2回以下	C				
A	B	C	D											
9回以上	8～6回	5～3回	2回以下											
総務企画部	本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や中学生またその保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(福高だより、学校案内)やホームページによる情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらうよう広報誌(福高タイムズ)の発行、ホームページの更新等に努める。	在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページや福高タイムズ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。 [学校評価アンケート(保護者用)問11「ホームページ等 広報」におけるプラス評価の割合(全学年の平均値)] <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	C	B		
A		B	C	D										
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満											
	ホームページや学校案内、広報誌(福高だより)、中学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容や方法を改善していくことで、本校の魅力を正しく知ってもらうよう努め、本校全体の志願	B												
							<p>た。しかし 保護者の評価は否定的なものは少なかったものの、わからないという評価が多くプラス評価は、70%を少し下回った。保護者に伝える工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であったが、人権講演会は、一部オンラインを活用しながら、全て予定通り実施できた。</li> <li>・人権講演会に参加することやリーフレットの活用により教職員人権研修を実施することができた。</li> </ul>							
							<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ更新件数を昨年度よりも大幅に伸ばすことができた。また、福高タイムズについて、より見やすいようにフォーマットを年度途中で改善するとともに、記事の内容もホームページでは十分に伝えることができない部分を詳しく掲載することができた。記事をより速やかに掲載するシステム作り及び、媒体そのものの認知度を上げることが課題である。</li> <li>・募集に関わる各種説明会等についてはコロナ禍ではあったものの、昨年同様には実施することができた。中丹合同説明会代替に関して学校紹</li> </ul>							

		者の増加を目指す。 [前期選抜(文理科学科)の志願者数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>50人以上</td> <td>45人以上</td> <td>40人以上</td> <td>40人未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	50人以上	45人以上	40人以上	40人未満			介動画をリニューアルした。視聴回数は約2,000回であった。
A	B	C	D										
50人以上	45人以上	40人以上	40人未満										
	分掌内外の連携を密にし、高校と附属中学校の広報や生徒募集を有機的に機能させる。	部会を定期的に開催し、また日常的に部内の意思疎通を図ることで、部全体が共通認識を持ち、協力体制のもと業務に取り組んでいけるよう努める。 [分掌会議の実施回数(作業を除く)] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40回以上</td> <td>35回以上</td> <td>30回以上</td> <td>30回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40回以上	35回以上	30回以上	30回未満	B		・木曜日7時間目に定期的に部会を実施することで年間通じて情報共有を密に行うことができた。また、日常的にコミュニケーションをとることで協力体制をとって業務を行うことができた。
A	B	C	D										
40回以上	35回以上	30回以上	30回未満										
みらい探究部	京都WWLの共同実施校(2年目)として、イノベティブなグローバル人材の育成に関する取組を積極的に行い、生徒が主体的に学ぼうとする意欲や、学ぶ楽しさを味わわせる。	ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム構築支援事業(WWL)の取組について、総合的な探究の時間を軸に教科や分掌と連携して計画・実施し、生徒が国際社会で生き抜く力を育てる。 [参加生徒の満足度] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における様々な制限はあったものの、昨年度以上に多くのWWL事業に参加することができた(海外インターシップ関連事業、金剛能楽堂見学等)。高校生サミットでは英語を介した協働や発表に参加する生徒も現れた。また国際理解プログラムの立ち上げに伴い、JICAとの連携や他校とのディベートなどに積極的に取り組むことができた。</li> <li>・前年度の方法を踏襲するだけでなく、各担当が毎時間の取組について現状や実態を見ながら工夫・改善して計画をすすめた。また本年度から普通科の総合的な探究の時間「みらい考Ⅱ」が始まり、4種類の授業内容を分掌内で相談しながら協力して計画・準備・実施することができた。より良い授業となるようさらに工夫・改善をすすめていく必要がある。</li> <li>・外部発表については、京都サイエンスフェスタ等に参加できた。計画段階で予定していたWWL全国大会等への発表について</li> </ul>
	A	B	C	D									
	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満									
普通科の総合的な探究の時間「みらい考Ⅱ」(新規)について、週1時間の学習計画を立て、PDCAサイクルを回してスタイルを完成させるとともに、「みらい考Ⅰ」の深化、ⅠⅡの繋がりを持たせる。	前年度のみらい考Ⅰをベースに、普通科の総合的な学習の時間の内容を計画・実施し、課題設定力・課題解決力・表現力の育成を組織的・系統的に実施する。 [生徒が自身のキャリアに繋がったと感じた人数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>85%以上</td> <td>80%以上</td> <td>80%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	B	B		
A	B	C	D										
90%以上	85%以上	80%以上	80%未満										
文理科学科の総合的な探究の時間「みらい学Ⅰ」「みらい学Ⅱ」を通して「課題研究リテラシー」の向上を図るとともに、研究内容の充実・深化をはかり、外部発表や	課題研究に必要なスキル(研究の進め方や発表の仕方、評価の方法等)を身に付けるプログラムを工夫・改善する。さらにできるだけ多くの外部発表を行い、研究成果を外部に発信する。 [外部発表、実現に向けて行動した数]	B	B										

	課題解決の実現に向けた『行動する力』を重視する。	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5つ以上</td> <td>3つ以上</td> <td>1つ以上</td> <td>0</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5つ以上	3つ以上	1つ以上	0			は本年度は実現できなかった。次年度の実現に向けてさらに積み上げていく。
A	B	C	D										
5つ以上	3つ以上	1つ以上	0										
図書 視聴覚部	読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。	<p>学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。 〔授業での図書館活用回数（みらい学を除く）〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80回以上</td> <td>70～79回</td> <td>60～69回</td> <td>59回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80回以上	70～79回	60～69回	59回以下	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動以外では4つの教科、科目等による図書館活用があった。今後も授業での活用機会が増えるよう内容を充実させていきたい。 〔みらい学・考以外の活用回数87回〕</li> <li>・朝の健康観察後に読書の時間を設定し、生徒の読書活動を喚起する手段の一つとすることができた。</li> <li>・「さくら連絡網」については昨年度以上に学校全体での活用が進み、情報発信を行うことができた。</li> <li>・学校行事に限られ、保護者の方に直接参加していただく機会がない1年間ではあったが、PTA活動として本部役員の方を中心に、熱心に取り組んでいただいた。 〔PTA活動に対するプラス評価77.1%〕</li> </ul>
	A	B	C	D									
80回以上	70～79回	60～69回	59回以下										
PTA活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。	<p>PTA活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やPTA活動について「お知らせメール（さくら連絡網）」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。 〔保護者対象学校評価アンケートのPTA活動に対するプラス評価〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>65%以上</td> <td>60～64%</td> <td>55～59%</td> <td>55%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	65%以上	60～64%	55～59%	55%未満	A			
A	B	C	D										
65%以上	60～64%	55～59%	55%未満										
第1学年部	互いに認め合える学年団の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に相手の気持ちを考えて、他者を思いやる行動を取るように促す。</li> <li>・お互いが認め合える学年形成を目指し、学年アンケートを実施する。 〔第1学年アンケート満足度の割合〕</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～90%</td> <td>89～85%</td> <td>84%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～90%	89～85%	84%以下	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年アンケートの結果、満足している35名、まあまあ満足している167名となり、全体(アンケート回答233名)の87%となった。</li> <li>・11月の進路希望調査では、1組3名、2組2名、3組5名、4組1名の計11名が未定となっており(5・6組0名)、10名を超えたが、入学時に比べると自らの進路を考える生徒が増えている。</li> </ul>
	A	B	C	D									
95%以上	94～90%	89～85%	84%以下										
自らの希望進路目標を見据え、意欲的に行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談を重視し、進路目標を明確化させる。 〔第2回進路希望調査-11月での進路未定者数〕</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～5人</td> <td>6～9人</td> <td>10人以上</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</li> </ul>	A	B	C	D	0人	1～5人	6～9人	10人以上	D			
A	B	C	D										
0人	1～5人	6～9人	10人以上										



	<p>学校行事やクラス活動、部活動に積極的に参加し、互いを高め合える態度を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶を奨励し、日常的なマナーを身につける、コミュニケーション能力を涵養する。</li> <li>・学校行事や部活動、クラスでの活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。</li> </ul> <p>〔学校行事やクラスの取組に協力的に参加したと思った生徒の割合〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%～90%</td> <td>89%～70%</td> <td>69%～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝、校門付近で挨拶を行い、日常的なマナーを身につけられるようになった。</li> <li>・学年アンケートの結果、クラス取組に協力できた98名、まあまあ協力できた124名となり、全体の95%が協力できたと考えている。</li> </ul>								
A	B	C	D																	
100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下																	
第2学年部	<p>基本的な生活習慣を確立させるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習時間を確保し、確かな学力をつけさせる。</li> <li>・模擬試験での得点向上を目指した学習計画を立て、入試に向けての意識を高めさせる。</li> </ul> <p>〔1月進研模試の学年全体の平均偏差値(英・数・国)〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60以上</td> <td>59.9～55</td> <td>54.9～50</td> <td>50未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔1月進研模試A3以上の人数(英・数・国)〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>81人以上</td> <td>80～66人</td> <td>65～50人</td> <td>50人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60以上	59.9～55	54.9～50	50未満	A	B	C	D	81人以上	80～66人	65～50人	50人未満	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力をつけるという目標については、1月進研模試結果によると3教科の平均偏差値が55.3であること、A3以上の人数が97人であったことにより達成できたと判断できる。</li> <li>・校内の進路説明会や担任面談等とおして生徒の進路意識を喚起した結果、ハイレベル模試(駿台)への申し込みが過去最多を更新したり、オープンキャンパスへの生徒が多数参加するなどから進路意識の高揚が見られる。</li> </ul>
A	B	C	D																	
60以上	59.9～55	54.9～50	50未満																	
A	B	C	D																	
81人以上	80～66人	65～50人	50人未満																	
	<p>自己理解を深め、バランスのとれた学力を身につけさせるとともに、進路に対する意識を喚起させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスや学校説明会への積極的参加を促し、進路目標を具体化させる。</li> <li>・個人面談、進路検討会を充実させ、進路意識の高揚をはかる。</li> </ul> <p>〔具体的な進路目標を持っている生徒の割合〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>99～90%</td> <td>89～80%</td> <td>80%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	99～90%	89～80%	80%未満	A	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であったが、研修旅行が無事に実施できた。研修旅行後のアンケートによると[満足]または[概ね満足]と回答した生徒数合計が99.5%となるなど、学校生活を楽しんでいる様子が見える。また、学校評価アンケートでは84.1%の生徒が「学校行事が充実したものになっている」に対して肯定的な回答をしている。</li> </ul>								
A	B	C	D																	
100%	99～90%	89～80%	80%未満																	
	<p>学校行事、クラス活動、部活動に積極的に参加し、集団をまとめる力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、クラス活動、部活動への積極的な参加を促し、集団の中での自分の役割を理解するとともに、常に相手の気持ちを考えた行動を取らせる。</li> </ul>																		

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動への積極的な参加を促す。</li> <li>・自分の考えを他者にわかりやすく表現する力を養う取組を重視する。</li> </ul> <p>〔学校評価において、「学校行事は充実したものになっている」の項目に対して肯定的評価をした生徒の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～70%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	70%未満	B									
A	B	C	D																	
90%以上	89～80%	79～70%	70%未満																	
第3学年部	<p>基礎的な学力を定着させ、思考力・判断力・表現力を更に向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題を認識させ、短期目標を設定させるなどして、苦手科目の克服に取り組ませる。</li> <li>・模擬試験での得点向上を目指した学習計画を立てさせ、入試に向けての意識を高めさせる。</li> </ul> <p>〔学年全体の6月進研共通テ模試平均偏差値(英・数・国)〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>58.0以上</td> <td>55.0以上</td> <td>52.0以上</td> <td>52.0未満</td> </tr> </table> <p>〔6月進研共通テスト模試A3以上の人数の平均(英・数・国)〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>130人以上</td> <td>100人以上</td> <td>70人以上</td> <td>70人未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満	A	B	C	D	130人以上	100人以上	70人以上	70人未満	C	<p>○苦手科目の克服に取り組んだ生徒は94%(1月時点)と、2年次の67.3%から大きく向上したが、その効果を実感しているのは41%と決して多くはない。学習計画を立て、それに従って取り組み始めた時期が、年度当初が22%、秋以降が57%であることを勘案すると、苦手科目の克服に取り組み始めた時期が遅かった者が多いのではないかとと思われる。また、6月進研模試の平均偏差値は52.4、A3以上の人数の平均は89人であり、初夏時点でまだまだ成果が現れていないことを示している。</p>
A	B	C	D																	
58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満																	
A	B	C	D																	
130人以上	100人以上	70人以上	70人未満																	
	<p>進路目標を明確に持たせ、希望進路の実現に向けて主体的・計画的に行動させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との面談に重点を置き、関係分掌や教科担当者との連携を密にして、生徒の希望進路実現を図る。</li> </ul> <p>〔進路希望調査(4月)で国公立大を志望した生徒の国公立大合格率〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>59～50%</td> <td>49～40%</td> <td>40%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59～50%	49～40%	40%未満	B	<p>○生徒および保護者との面談を密にし、希望進路の実現を図ることができた。国公立大学には3月24日時点で86名(述べ91名)が合格し57%の合格率となったため、評価はBとする。</p>								
A	B	C	D																	
60%以上	59～50%	49～40%	40%未満																	
	<p>学校生活の様々な場面で、主体的に自己の役割を果たす態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事をはじめ、クラスでの活動や部活動に、主体的かつ積極的に関わらせる。</li> <li>・集団の中での自分の能力や適性を把握させ、チームの一員としての自己の役割を果たさせる。</li> <li>・活動の際には、常に他者を思いやりつつ協働させる。</li> </ul>	A	<p>○自己の役割を見つけ、十分に、または部分的に果たすことができた生徒は93%と、昨年度の67%から大きく向上した。感染症予防のため活動が制限される中、多くの生徒が限られた機会を充実したものとしようと意</p>																

		<p>〔諸活動の中で、自己の役割を見つけ、果たせたと評価した生徒の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～40%</td> <td>40%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～40%	40%未満		<p>欲的に活動したことは、成果である。</p>
A	B	C	D									
80%以上	79～60%	59～40%	40%未満									
事務部	<p>安心・安全な学校を維持し、管理を徹底する。</p>	<p>危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。</p> <p>〔危険箇所に対する改修率〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B	<p>・学校全体を見通した危険箇所を早期に発見し、概ね改修できた。また、日頃の環境整備により、危険箇所の早期発見に努めた。</p> <p>・大規模改修工事が開始され、安全安心を第一に連絡調整を心掛け、関連する工事や物品調達等について、教育庁に予算要求し執行した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策として、情報機器の調達、エアコン運用、必要物品の調達を可能な限り早期に対応を行った。今後も必要と思われる設備整備や物品調達については、予算確保ができるように、教育庁に継続して要望していく。</p> <p>・運営費予算執行は、担当者の休業や病休で代替職員での対応となったため、要望を的確に聞き取り、直ちに効果的及び効率的な執行ができなかった。物品の充実を推し進めることを心掛け、予算の厳しい中でも執行ができるよう体制づくりが必要である。</p> <p>・窓口・電話対応は、親切丁寧、迅速及び正確に行い、円滑な学校運営に努めた。</p>
	A	B	C	D								
	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満								
<p>学校経営方針を推進するため各分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。</p>	<p>各分掌・教科と連携を密にし、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し本校教育に即した予算計画を立案し、確実に執行する。</p> <p>〔教科・分掌の予算執行満足度〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	C		
A	B	C	D									
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満									
<p>丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。</p>	<p>府民との窓口になる対応を丁寧、的確及び迅速に行い、円滑な学校運営に努める。</p>	A										
国語科	<p>主体的・対話的で深い学び(AL)からの授業改善をいっそう推進す</p>	<p>教科内での授業研究や、学校外での研修会への参加を積極的に行い、ICTの有効活用や教科指導</p>		<p>〔授業改善〕研究会等への参加は、昨年度よりもオンラインや対面式の研修</p>								

	<p>べく、指導方法の改善に努める。 また、ICTの授業での有効活用に努める。</p>	<p>力の向上を目指す。 〔研修会等への年間参加回数〕</p> <table border="1" data-bbox="824 178 1384 258"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>16回以上</td> <td>12回以上</td> <td>8回以下</td> </tr> </table> <p>(R3年度 16回)</p>	A	B	C	D	20回以上	16回以上	12回以上	8回以下	<p>B B</p>									
A	B	C	D																	
20回以上	16回以上	12回以上	8回以下																	
	<p>生徒の言語文化に対する関心を深め、基本的な語彙力の定着を図る。</p>	<p>基本的語彙力の定着を目指して、小テスト等に真剣に取り組ませる。 〔漢字・現代文語彙テスト 学年平均点80%以上の学年〕</p> <table border="1" data-bbox="824 491 1384 571"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3学年</td> <td>2学年</td> <td>1学年</td> <td>なし</td> </tr> </table> <p>(R3年度 1年87%、2年86%、3年88%) 〔古文単語テスト 学年平均75%以上の学年〕</p> <table border="1" data-bbox="824 651 1384 730"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3学年</td> <td>2学年</td> <td>1学年</td> <td>なし</td> </tr> </table> <p>(R3年度 1年83%、2年87%、3年50%)</p>	A	B	C	D	3学年	2学年	1学年	なし	A	B	C	D	3学年	2学年	1学年	なし	<p>A A B</p>	<p>B の機会が増えているにもかかわらず、本校からの参加は6回減少している。各自が機会を有効に使い、研修に努める必要がある。また、昨年度の課題であった、ICTを活用する授業についての授業改革は、徐々に進んでいる。 〔語彙力の定着〕基礎基本を徹底して押さえる授業を実施するとともに、語彙力を定着させるため、定期的に小テストを実施した。1学年の古文単語テストは、再テストや書き取りを繰り返し、古語に慣れていくように図った。3学年の古文単語テストは、2年次までに終えた全範囲を2度の考査に分けて出題するというものであった。50%という極めて低い結果であり、定着が不十分であることが明瞭になった。</p>
A	B	C	D																	
3学年	2学年	1学年	なし																	
A	B	C	D																	
3学年	2学年	1学年	なし																	
<p>地歴公民科</p>	<p>進路実現のための学力向上と社会的役割の自覚に向けて、自立学習を確立させ、物事を主体的に考える力の育成に努める。</p>	<p>社会の事象を主体的に考察するための根幹となる学習事項の基礎基本を確実に定着させ、生徒の学力の向上に努める。 〔3年生大学入学共通テスト平均の対全国平均値〕</p> <table border="1" data-bbox="824 965 1384 1045"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>+8点以上</td> <td>+6点以上</td> <td>+4点以上</td> <td>+3点未満</td> </tr> </table> <hr/> <p>生徒が現代社会全体に関心を持てるように、政治・経済・文化などとの関わりを実感させ、主体的に物事を考察し、課題を発見できる教育を進める。 〔発展的な課題発見授業・講演会・土曜講座等の実施数〕</p> <table border="1" data-bbox="824 1284 1384 1364"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>7回以上</td> <td>6・5回</td> <td>4・3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	+8点以上	+6点以上	+4点以上	+3点未満	A	B	C	D	7回以上	6・5回	4・3回	2回以下	<p>B A</p>	<p>B ・教科全体の対大学入学共通テスト平均値は+6.15(大学入学共通テスト平均61.18に対し本校67.32)であった(平均は1/21現在の中間速報値)。ほとんどの科目で平均値を上回ることができ、大学入試レベルの学力定着には一定の成果を得た。一方で、思考力を問う新たな傾向の問題に関しては、しっかりとした対策が必要である。 ・「地域連携プログラム」にて各種取組を実施した。土曜講座を利用した縄文土器の製作体験や出前高校生議会の開催等、生徒の主体的な活動を活性化することができた。今後も地域との連携を強めながら、創造力豊かな探究活動を実施していきたい。</p>
A	B	C	D																	
+8点以上	+6点以上	+4点以上	+3点未満																	
A	B	C	D																	
7回以上	6・5回	4・3回	2回以下																	
	<p>生徒の学習意欲を高めるため、教</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現とともに、</p>																		

	<p>科内で連携をとり、各人が「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を積極的に進めるとともに、ICTを活用した効果的な指導力の向上に努める。</p>	<p>ICTを活用した効果的な指導方法の確立に向けてのテーマで研究授業を実施し、研究協議を行う。 [テーマに関する研究授業と研究協議の実施回数]</p> <table border="1" data-bbox="801 220 1364 300"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>5回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7回	6回	5回以下	B	<p>・各学期ごとに「主体的・対話的で深い学び」及びICTを活用した効果的な指導法の確立に向け、研究授業を実施した。新たな指導方法のあり方や次年度以降実施される観点別評価のあり方について研究協議を進めることができた。今後は定期的な教科部会を設定し、意見交流を一層進めていきたい。</p>																
A	B	C	D																									
8回以上	7回	6回	5回以下																									
数学科	<p>主体的な態度で粘り強く学習に励む生徒を育成し、希望進路に対応できる学力を養成する。</p>	<p>&lt;1年生&gt; 学習状況の把握と丁寧な指導を行い基礎学力の定着を図る。 [全員模試の平均偏差値の差(1月-7月)]</p> <table border="1" data-bbox="786 571 1352 651"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3~0</td> <td>0~-3</td> <td>-3未満</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p>&lt;2年生&gt; 学習方法を指導することにより、個々の学習スタイルを確立させ、主体的に学習に励む生徒を育てる。 [全員模試の平均偏差値の差(11月-7月)]</p> <table border="1" data-bbox="786 842 1352 922"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3~0</td> <td>0~-3</td> <td>-3未満</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p>&lt;3年生&gt; 日々の授業に加え、共通テスト対策演習やにじゼミ等により、希望進路実現に必要な学力を充実させる。 [大学入学共通テスト 数学I A 対全国平均]</p> <table border="1" data-bbox="786 1118 1352 1198"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>4点以上</td> <td>4~2点</td> <td>2~0点</td> <td>0点未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3以上	3~0	0~-3	-3未満	A	B	C	D	3以上	3~0	0~-3	-3未満	A	B	C	D	4点以上	4~2点	2~0点	0点未満	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>&lt;1年生&gt; 教科書を中心にした問題に取り組むことで基礎学力の定着を図るとともに、課題プリントや参考書を利用した発展問題も扱い、学習を進めることができた。授業や課題提出状況などから個々の学習状況の把握に努め、対応を行った。</p> <p>&lt;2年生&gt; 全員模試の平均偏差値の差(11月-7月)は-1.1であり、目標には届かなかった。しかし、偏差値70以上の人数が、例年10人台だが、今年度は30人弱存在しており、学習に対して主体的で意欲的な生徒が多い。</p> <p>&lt;3年生&gt; 共通テスト数学I A平均点は42.27点(全国平均+4.31点)であった。思考力を問う難しい問題に対応する力を生徒につけさせるための授業とはどのようなものなのか、課題が残った。 各担当者がクラス・講座に応じて学習意欲を高める指導の工夫と改善に努めることができた。</p>
A	B	C	D																									
3以上	3~0	0~-3	-3未満																									
A	B	C	D																									
3以上	3~0	0~-3	-3未満																									
A	B	C	D																									
4点以上	4~2点	2~0点	0点未満																									
	<p>学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。</p>	<p>ICTの活用についての交流を図る。</p> <table border="1" data-bbox="786 1273 1352 1353"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>図れた</td> <td>まあまあ図れた</td> <td>あまり図れなかった</td> <td>図れなかった</td> </tr> </table>	A	B	C	D	図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった	B																	
A	B	C	D																									
図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった																									

理 科	各生徒の希望進路の実現に向け、基礎学力の定着並びに思考力、判断力、表現力の育成に努める。	<p>基礎学力を確実に定着させ、生徒全員の進路保障に努める（3年生）。また積極的な授業改善や個に応じた指導内容の工夫を行い、希望進路に応じた学力の充実に努める（1・2年生）。</p> <p>[大学入学共通テストの対全国平均点]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>9点以上</td> <td>5点以上</td> <td>3点以上</td> <td>3点未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	9点以上	5点以上	3点以上	3点未満	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における日々の取組に加え、個別添削指導や放課後講習会、定期考査前の学習会などを行い、基礎学力の定着及び希望進路に応じた学力伸長を図った。</li> <li>オンラインのアプリを活用して授業の復習課題を配信し、基礎学力の定着を図る取組も見られた。</li> <li>大学入学共通テストの対全国平均点（専門3科目の単純平均）は+5.4点であった。</li> <li>定期的な教科会議が持てない中ではあるが、観点別評価やBYODの導入に向けた検討を4回行った。一部の定期考査で観点を表記したり、タブレット端末を活用する授業の頻度が理科全体で上昇した。</li> <li>「みやこサイエンスフェスタ」、「科学の甲子園京都府予選会」、「海の京都サイエンスフェスタ」などで他校発表の視聴または自らの発表で参加した。満足度の平均は3.4であった。</li> </ul>
	A	B	C	D								
	9点以上	5点以上	3点以上	3点未満								
	<p>生徒が主体的に考え話し合い表現する場面を効果的に設定し、大学入学共通テストにも対応した「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める。また、観点別評価、ICT活用に向けての準備を進める。</p> <p>[教科会議で観点別評価・ICT活用について検討した回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>7回以上</td> <td>5回以上</td> <td>3回以上</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	7回以上	5回以上	3回以上	2回以下	C		
A	B	C	D									
7回以上	5回以上	3回以上	2回以下									
「スーパーサイエンスネットワーク京都」指定校としての取組を生かした本校独自の科学研究プログラムを推進する。	<p>外部機関主催の科学コンテストやフェスティバル、校内における特別講義や各種研究活動等への参加協力体制を組む。</p> <p>[各事業に対する平均生徒満足度（4段階）]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.7以上</td> <td>3.4以上</td> <td>3.1以上</td> <td>3.1未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.7以上	3.4以上	3.1以上	3.1未満	B		
A	B	C	D									
3.7以上	3.4以上	3.1以上	3.1未満									
保健体育科	<p>&lt;体力の向上を図る&gt;</p> <p>本校生徒の体力は、京都府平均と比較しても、筋力・柔軟性について劣る傾向があるため、体育授業及び体育的行事により体力の向上を目指す。</p>	<p>年間を通して体力向上をねらいとし、補強運動やトレーニング的な動作及びストレッチや柔軟運動を意識した授業を推進する。</p> <p>[各学期の授業時において、上体起こしを測定（1・2年男女）し、4月のスポーツテスト時から上昇した人数割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>～50%</td> <td>49～40%</td> <td>39～30%</td> <td>29%～</td> </tr> </table>	A	B	C	D	～50%	49～40%	39～30%	29%～	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツテストで上昇した人数割合は、62.1%であった。補強運動やトレーニングに真面目に取り組む生徒が多く、その成果が表れたものと思われる。</li> <li>体育の授業としては、重大事故は無</li> </ul>
A	B	C	D									
～50%	49～40%	39～30%	29%～									
	<健康・安全教育の推進>	体育・保健の授業を通して、自らの健康と安全	A									

	<p>体育及び体育的行事中の事故を防止し、自己管理能力育成を図る。</p>	<p>に対しての意識の高揚を図る。 [1年間の事故件数(通院を伴うもの)]</p> <table border="1" data-bbox="786 177 1377 256"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>～10件</td> <td>11～20件</td> <td>21～30件</td> <td>31件～</td> </tr> </table>	A	B	C	D	～10件	11～20件	21～30件	31件～		<p>く、その他のケガの件数も8件にとどまった。部活動中の件数が昨年から比べると7件増加し23件になった。授業以外でも事故が防げるように安全教育の充実を図っていききたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、全体集合自体が行いにくくなった。そのため、各部活動で日常的に学校の中心的な役割を持って行動する指導をお世話になった。新型コロナウイルスの関係で行事自体が削減され集会の数が減った。</li> </ul>
A	B	C	D									
～10件	11～20件	21～30件	31件～									
<p>芸術科</p>	<p>芸術に関わる幅広い活動を通し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め芸術の諸能力や技能を伸ばし、芸術文化に対する理解を深め、豊かな情操を養う。</p>	<p>〈音楽〉授業時や芸術文化展など発表の機会を設定し、器楽・歌唱等自らの演奏能力・表現能力を高める。 [発表の回数]</p> <table border="1" data-bbox="797 799 1368 879"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	<p>B</p>	<p>(音楽) 器楽(ギター、リコーダー、ミュージックベル等)では、合奏などの機会を設定した。校外で実施される予定だった文化芸術展での発表の準備も進めていたが、校内での発表に変更になった。</p> <p>(美術) 屏風やICTを活用し、様々な鑑賞の授業を行った。入学時、「鑑賞に興味がない」と回答した47名のうち39名が、3月の最後の授業のアンケートで「鑑賞に興味がある」と回答した。興味を持たない理由を考え、さらに多くの生徒の興味を引き出せる工夫をしていきたい。</p> <p>(書道)・授業形態に制約はあったが、グループワークや鑑賞の時間を設け、自ら気づくこと考えることを軸に授業を行うことができた。 また、個別指導により表現技術の向</p>
A	B	C	D									
5回以上	4回	3回	2回以下									
		<p>〈美術〉鑑賞・表現の授業改善を行い、見方や感じ方を深め生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 [4月に美術鑑賞に興味がないと回答した生徒が2月に興味をあると回答した割合]</p> <table border="1" data-bbox="797 1118 1368 1198"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下	<p>A</p>	
A	B	C	D									
80%以上	79～60%	59～40%	39%以下									
		<p>〈書道〉主体的・対話的で深い学びの中から、本校が目指す生徒像を目標に、生徒の育成が推進できるよう授業改善に努める。授業内容と指導方法の改善により生徒の達成感を高める取組を推進する。 [授業アンケートより、「分かった」「できた」</p>	<p>B</p>									

		<p>と思うことがよくある生徒の割合（回答4）]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>65～74%</td> <td>55～64%</td> <td>54%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	75%以上	65～74%	55～64%	54%以下		<p>上に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術展に向けて作品制作の取り組みを充実した内容で行うことができた。</li> </ul>
A	B	C	D									
75%以上	65～74%	55～64%	54%以下									
英語科	<p>多様かつハイレベルな進路希望に対応できる基礎から応用までの幅広い学力を養成する。</p>	<p>家庭学習指導の徹底、課題への取組、模試の復習を通じて、学力の向上を図る。 [3年生共通テスト平均点の全国平均値との差] *リーディング100点+リスニング100点の計200点満点</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>+16点以上</td> <td>+15～8点</td> <td>+7～0点</td> <td>マイナス</td> </tr> </table>	A	B	C	D	+16点以上	+15～8点	+7～0点	マイナス	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共通テストの全国平均(大学入試センター中間集計)は、リーディングが61.8点(100点満点)、リスニングが59.5点(100点満点)で、本校の平均はリーディングが68.8点、リスニングが63.6点であった。よって、リーディングとリスニングの合計で本校の平均は全国平均を11.1点上回る結果となった。(本校平均点132.4点/全国平均点121.3点)</li> <li>今後、共通テストに向けての効果的なリスニング指導が課題である。</li> <li>新学習指導要領に関して教科内で研修会を開き、新しい評価についての研修を深めることができた。また、各種研修会に参加し、研修内容を共有することにより、教科全体で指導力の向上に向けて研鑽を積むことができた。</li> <li>英語4技能外部試験として本年度も実用英語技能検定と1・2年生を対象にGTECを実施し、特にGTECに関しては教科内全員で研修を深めることができた。</li> <li>視覚資料の提示を行い、生徒の内容理解を促進することができた。また英文の投影など、授業を円滑に進めるための活用ができた。来年度からBYODが実施され、生徒一人ひとりがICT機器</li> </ul>
A	B	C	D									
+16点以上	+15～8点	+7～0点	マイナス									
	<p>英語4技能の向上に資するため、アクティブラーニングの視点から授業改善に取り組む。</p>	<p>新学習指導要領、大学入学共通テスト、英語4技能外部試験に向けて体系的に指導をするため、教科内で一致して研修を進める。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>十分に達成できた</td> <td>ほぼ達成できた</td> <td>達成度が不十分だった</td> <td>全くできなかった</td> </tr> </table>	A	B	C	D	十分に達成できた	ほぼ達成できた	達成度が不十分だった	全くできなかった	B	
A	B	C	D									
十分に達成できた	ほぼ達成できた	達成度が不十分だった	全くできなかった									
	<p>Wi-Fi環境の充実やプロジェクターの設置に伴い、ICT教育に対して積極的に取り組む。</p>	<p>授業の中で、ICT機器を有効に活用する。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>十分に活用できた</td> <td>ある程度活用できた</td> <td>活用が不十分だった</td> <td>全くできなかった</td> </tr> </table>	A	B	C	D	十分に活用できた	ある程度活用できた	活用が不十分だった	全くできなかった		
A	B	C	D									
十分に活用できた	ある程度活用できた	活用が不十分だった	全くできなかった									



				を所持するにあたって、学力向上のために効果的な活用方法を検討する必要がある。								
家庭科	実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する指導の工夫改善を図る。	授業ごとのねらいを明確にし、実習等の実践的体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図るとともに5K力に基づいた振り返りを行う。 [5K力に基づいた振り返りの実施回数(割合)] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80~89%</td> <td>70~79%</td> <td>69%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80~89%	70~79%	69%以下	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で体験や調理実習の実施に制約がある中、オンラインによる赤ちゃんふれあい体験やエコ・クッキングの一人調理の実習、短時間少人数でのディスカッションを行うなど工夫し、体験的な学習を行い、主体的な学びにつなげることができた。</li> <li>・授業のねらいを示し、終わりに振り返りを行ったが、その記述より、生徒自身が授業ごとの学びを自立につなげようとしている姿勢が見られた。</li> <li>・「子育て学習プログラム」の実施については、講義、視聴覚教材、オンラインによるふれあい体験などを通して多くの生徒が乳幼児に関心をもったり、子育てに対する理解を深めることができた。</li> </ul>
		A	B	C	D							
90%以上	80~89%	70~79%	69%以下									
「子育て学習プログラム」の実施を通して生徒の出産・子育て・人生設計について生徒の変容が見られる授業の工夫を行う。 [意識の変容が見られたと解答した生徒(割合)] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80~89%</td> <td>70~79%</td> <td>69%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80~89%	70~79%	69%以下	A			
A	B	C	D									
90%以上	80~89%	70~79%	69%以下									
情報	情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度、課題や目的に応じた情報手段の適切な活用ができる能力を養うとともに、受け手の状況などを踏まえた発信、伝達社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解させる。 また、新課程に向けて、大学入学共通テストの教科「情報」への対応を踏まえた教科研修を実施する。	<1年生> 社会と情報(普通科) みらい情報(文理科学科) (1)情報の活用と表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の特徴とメディアの意味、デジタル化された情報を統合的に扱えること、および情報の表現と伝達の方法を習得させる。</li> </ul> (2)情報通信ネットワークとコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション伝達の手段の発達、ネットワークの仕組みと活用方法を理解させる。</li> </ul> (3)情報社会の課題と情報モラル <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化が社会に及ぼす影響、情報セキュリティの確保、情報社会における法と個人の責任を理解させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会の基礎知識や機器操作、情報発信におけるモラルの習熟を中心に学習し、多くの生徒がしっかりと理解をした。今後、生徒たちが、実生活の中で、学習内容を活かした行動等ができることを期待したい。</li> <li>また、表計算ソフト「エクセル」の基本的な関数を活用できるように、実技実習を積極的におこなった。2月に実施した生徒アンケートではスキルを習得したと回答した生徒が90%であった。</li> <li>PCで文書作成やプレゼンテーション</li> </ul>								

		<p>(4)望ましい情報社会の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会における情報システム、情報システムと人間、情報社会における問題の解決について考えさせる。</li> </ul> <p>[スキルを習得したと回答した生徒の割合]</p> <table border="1" data-bbox="801 293 1361 370"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>60～69%</td> <td>59%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;教員研修&gt;</p> <p>サンプル問題をもとに、数学科・情報科の教員での研修をおこない、指導計画等の検討をする。</p>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	59%以下	B	<p>A 等のソフトを扱う高校入学までの経験差が生徒間（学校間）で大きく、授業の進め方を工夫する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降の新課程での「情報」の情報共有しながら、共通テストに向けた情報の授業のあり方等を意識することができた。早急により具体化をしていくことが必要である。</li> </ul>
A	B	C	D									
80%以上	70～79%	60～69%	59%以下									

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した取組が多く行われているが、よい取組であり今後更に充実させていくことが望まれる。</li> </ul> <p>&lt;探究活動についての意見や評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動を中学生と高校生が合同のチームで行うことも考えられる。</li> <li>・学校と地域をつなぐコーディネーター等の外部人材の活用が重要である。</li> <li>・市の広報機関との連携も一層進めるべきである。</li> <li>・WWLを利用した大学連携の推進やICTを活用した企業や地域との連携等、新しい取組を考えてもらいたい。</li> <li>・1人1台学習端末導入にあたり、教員側も活用能力や情報リテラシーを高めてもらいたい。</li> </ul>
----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>次年度に向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WWLの3年目（完成年度）としての取組を行う。</li> <li>・総合的な探究の時間（みらい学、みらい考）の充実を図る。</li> <li>・1人1台学習端末導入にあたり、教員側も授業での活用能力や情報リテラシーを高める。</li> <li>・観点別評価導入により、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。</li> <li>・来年度入学生から導入する1人1台端末により、生徒が主体的に学ぼうとする意識を高めるとともに学力向上に繋がる実践を推進する。</li> <li>・特別な支援を要する生徒への対応については、ノーマライゼーションの観点から、学校の教育力全体の向上につながるよう取り組む。</li> </ul>
---------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------